

瀬戸内海国立公園指定 90 周年記念事業

岡山県環境文化部自然環境課

1. はじめに

瀬戸内海国立公園は、昭和9年3月 16 日に我が国最初の国立公園の一つとして指定され、今年で 90 周年の節目の年を迎えました。この機会を捉え、岡山県では、瀬戸内海の優れた景観や歴史、文化など、その魅力を多くの人に知っていただくとともに、次代に引き継いでいくため、記念式典やさまざまな記念事業を実施していますのでご紹介します。なお、この記事は令和6年7月末日に執筆しました。

2. 記念式典の開催

令和6年 10月5日に、倉敷市にて瀬戸内海国立公園指定90周年記念式典を開催します。その眺望が公園指定のきっかけとなった鷺羽山にあるせとうち児島ホテルを会場としており、多島美景観を参加者の皆様に楽しんでいただくことにしています。

環境省中国四国地方環境事務所、岡山県、倉敷市の3者による実行委員会において、記念式典の内容を協議し決定するなど準備を進めており、関係国会議員、関係府県知事など約 300 人の方にお集まりいただく予定です。

テーマは「つなぐ つたえる つながる 瀬戸内海」としており、「つなぐ」は瀬戸内海の自然、文化、歴史などをつなぐ、「つたえる」は次世代や県・国内外の人へつたえる、「つながる」は未来に向けて更に広がりをもたせてつながるという意味が込められています。

このテーマの下、瀬戸内海の持つポテンシャルを改めて見直し、観光促進や環境保全に結びつけていくため、Discover Japan 統括編集長の高橋俊宏氏による基調講演ののち、瀬戸内海をフィールドに活躍される角南篤氏((公財)笹川平和財団理事長)、山本厚宏氏((公社)岡山県観光連盟次長／自然公園指導員)、甘利彩子氏(NPO 法人瀬戸内こえびネットワーク事務局長)、トム 宮川 コールトン氏(写真家／ライター))の4人によるパネルディスカッションを行うこととしています。

江戸時代から地域に伝わる民謡「下津井節」を基につくられた「とこはい下津井節」や、ユネスコ無形文化遺産に指定された「白石踊」を披露し、瀬戸内海で受け継がれてきた伝統文化にも触れていただき、終わりに地域の小中高校生が誓いの言葉を述べ、瀬戸内海のかげがえのない自然や文化、歴史を守り、次代へと受け継いでいくことを高らかに宣言します。

3. 記念事業の実施

(1) 鷺羽山・屋島ウオーク

指定日にもあたる令和6年3月16日には、瀬戸内海国立公園でも指折りの風景地である鷺羽山及び屋島において、香川県と連携して「鷺羽山・屋島ウオーク」を開催しました。穏やかな春の陽気の中、鷺羽山コースには約 200 名が参加しました。

児島駅前広場での出発式では、伊原木岡山県知事が「指定の決め手となった鷺羽山からの素晴らしい景観を楽しんでいただきたい」と挨拶し、参加者は下津井電鉄の廃線跡を整備した「風の道」をたどり、古くからの港町である下津井地区を眼下に、島々が重なる美しい景色を眺めながら、約 10kmのコースを歩きました。



写真1 「鷺羽山・屋島ウォーク」鷺羽山コースの様様

(2) 瀬戸内海国立公園パネル展

令和6年3月15日から28日にかけて岡山県庁県民ホールにおいて、瀬戸内海国立公園の風景写真を展示するパネル展を開催しました。

指定のきっかけとなった、鷺羽山や香川県の屋島をはじめ、兵庫県、山口県、徳島県、大分県等の風景地で撮影された四季折々の美しい風景写真や、環境省主催の国立公園フォトコンテストの入賞作品、明治・大正期の鷺羽山や下津井港の写真など35点のパネルを展示しました。これらのパネルを多くの人に見てもらい、実際に国立公園を訪れるきっかけにしてほしいとの思いから開催したものです。

このパネル展が好評だったこともあり、岡山県立図書館の協力を得て、瀬戸内海や国立公園に関連する書籍と写真パネルの連携展示を令和6年7月16日から9月16日まで行っています。



写真2 パネル展示の様子

(3) フォトコンテスト

写真撮影を通じ、景観の素晴らしさなど瀬戸内海の魅力を発見していただけるよう、「昨日の 今日の 明日の ワタシのせとうち。ーあなたのワンショットで感動をシェアー」をキャッチコピーとし、令和6年7月20日から8月31日までの間、フォトコンテストを開催しています。

スマホを使って気軽に応募していただけるよう専用サイトを設置し、入賞者にはオリジナル旅行券や季節の果物を贈呈することになっています。

(4) スタンプラリー

瀬戸内海国立公園に実際に足を運び、瀬戸内海の魅力を体感していただけるよう、令和6年7月20日から9月30日までの間、香川県と連携してスタンプラリーを実施しています。

鷺羽山レストハウス、王子が岳パークセンター、渚の交番ひなせうみらぼ、笠岡市立カブトガニ博物館(以上、岡山県内)、寒霞渓ロープウェイ、やしまーる、五色台ビジターセンター、道の駅ことひき(以上、香川県内)に設置されたスタンプを2つ集めて応募いただくと、抽選で岡山県、香川県の特産品が当たります。



写真3 鷺羽山からの風景

(5) 魅力体験ツアーin笠岡諸島

令和6年8月 25 日に、笠岡市の白石島で、トレッキング、シーカヤックを体験でき白石踊を鑑賞できるツアーを開催します。

トレッキングでは、自然が創り出した奇岩や巨岩を楽しむことができ、展望台からは瀬戸内海の多島美観を望むことができます。

シーカヤック体験では、魚等を間近で見ながら海のアクティビティを楽しんでいただきます。白石島に古くから伝わり、風流踊としてユネスコ無形文化遺産にも登録された白石踊の鑑賞もしていただくことにより、素晴らしい景観、自然、文化に触れることにより、瀬戸内海国立公園を大切に思う心が育まれることを期待しています。



写真4 シーカヤック



写真5 白石踊

(6) 海ごみ回収コンテスト

瀬戸内海国立公園の豊かな自然を五感で感じながら、瀬戸内海の家ごみの実態に触れ、環境保全意識の高揚を図るため、令和6年 11 月下旬頃に、瀬戸内海をロケーションとして海ごみ回収コンテストを実施する予定です。コンテストへの参加がきっかけとなり、海ごみ削減に向けた実践行動をとる人が増えることを願っています。



写真6 海ごみ回収(イメージ)

4. 最後に

今回は、環境省中国四国地方環境事務所、岡山県、倉敷市とで共催する記念式典や、岡山県が主催する記念事業について紹介しましたが、このほかにも 90 周年を契機として、関係自治体や地元団体等による様々な取組が行われており、90 周年にあたり定められたシンボルマークも大いに活用されています。こうした取組により、瀬戸内海の素晴らしさが改めて認識され、各地域における景観・自然環境の保全、観光促進、地域進行などの取組が活発化し継続していくことを願ってやみません。瀬戸内海という財産をより良い形で次代へ引き継ぐため、90周年を契機として関係自治体等とさらに連携を深め、来る100周年に向け、取組を強めたいと考えています。瀬戸内海が有するポテンシャルを最大限に活かし、魅力発信と誘客を図るとともに、瀬戸内海の環境や景観を守り、育てていく所存です。



図1 シンボルマーク